

謹賀新年 地域医療

あがの市かわら版

第11号

「県知事とのタウンミーティング」

阿賀野市で開催 医師の充実求める

県の主催で12月21日(月)、阿賀野市ふれあい会館において、「みんなで支える地域医療〜私たちにできること〜」をテーマに、泉田県知事がコーディネーターとなり、4人のパネリストが、あがの市民病院を中心とした地域医療の方向性について、意見交換を行いました。

阿賀野市では初めて行われ、市民220人が参加し、地域医療についての関心の高さがうかがわれました。
パネリストは、日経BP社の千田敏之氏、あがの市民病院尾崎進院長、スポーツインストラクター遠藤志野氏、北窓隆子副知事の皆さんでした。
冒頭、泉田県知事は、県立新発田病院が開院した後、水原郷病院が大変な状況になったことを、鮮烈に覚えている。県ではその後、様々な医療環境の改善に取り組んできたこと

挨拶されました。

続いて、田中阿賀野市長が、市民に必要な時に必要な医療をどう提供して行くかが最大の課題で、あがの市民病院の医師の充実に努めているが、今後も県からご支援をいただきたいと挨拶しました。

パネルディスカッションでは、尾崎病院長が、「あがの市民病院の課題は、整形外科医がいけないこと、五泉市、阿賀町も含み、整形外科医は



シベリアから瓢湖（ひょうこ）に飛来した白鳥



いるが、入院機能がなく、消化器内科入院の受け皿もない。また、県内の産科医が少なく、出産施設があがの市民病院から隣県までないこと。」と述べられました。

阿賀野市の住民代表である遠藤氏は、「あがの市民病院からは、整形外科医や理学療法士から予防という視点で体操メニューなどのアドバイスも、また、受診の際には、栄養指導もしてもらうとありがたい。」、「救急患者を受け入れてもらえる病院になってほしい。脳梗塞や心筋梗塞など

発行：阿賀野市 民生部 地域医療推進課
平成28年1月4日
TEL 0250-61-2503（直通）
FAX 0250-62-0281
E-mail : chiikiiry@city.agano.niigata.jp

の一刻を争う病気は無理でも、あがの市民病院でお願いしたい。そのために、市民ももつと医師や病院の立場を理解し、時間外の受診は節度を持たなければならぬ。」と、話されました。
このような意見交換の後、泉田県知事は、「地域で病院を育てていくことが大事。医師が来たいという病院を目指すために県もバックアップしていきたい。」と結びました。



水原郷病院の解体始まる！ 来年夏頃までに駐車場完成の予定

12月に入り、水原郷病院の解体工事が本格的に始まりました。

この跡地には、あがの市民病院の駐車場が整備されることになっています。

現在の病院駐車場は一部しか整備されていないことから、病院を利用する多くの方には、市で整備した臨時駐車場を利用してもらっていますが、臨時駐車場は未舗装である上に院内の受付から遠いこともあって、市民から一日も早い駐車場の整備を求める声が挙がっています。

あがの市民病院が開院した10月1日以降、電気設備の撤去や給水管の撤去のほか、院内に残った医療機器や備品類の搬出作業などが同時に行われてきました。

解体工事は、外来診療棟を含む正面側の施設を解体するエリアと、その奥の病棟などを解体するエリアとに分割して工事が発注されていて、双方が各々のエリアから同時に解体を進めることで工事期間の短縮が期待されています。

解体工事を行う現場代理人は、「近辺に学校や公共施設も多く、廃材を運搬する際は十分気をつけて行いたい。」と話していました。

この解体工事は今年の春まで続く見込みで、その後、駐車場工事に着手することになっており、最終的な完了時期は夏頃の予定となっています。

